

研究テーマ	[Ⅱ 思い(発想・想像・構想)を広げ、深めること] 個の発想に応じて表現を広げることのできる題材の工夫 — 中学1年生「オリジナルの絵文字を作ろう」の実践を通して—
-------	--

坂東市立岩井中学校 教諭 上野 加奈子

1 研究テーマについて

前時までに学んだレタリングの技術を活かして、絵文字の制作を行う。私達が普段使っている漢字は、それぞれひとつの文字で意味を持っている。その性質をふまえて漢字に含まれている意味から発想を広げ、ユーモアを取り入れたり、背景や小物等の組み合わせを工夫したりして、発展的に扱える題材である。生徒が自分なりのイメージをもつ力や発想を表現につなげる力を育成したいと考え、本題材を設定した。

2 実践例

(1) 題材 オリジナルの絵文字を作ろう

(2) 目標

- 漢字の特徴や美しさを感じとり、工夫して表現しようとする。 (関心・意欲・態度)
- 漢字から自分なりのイメージをふくらませることができる。 (発想・構想の能力)
- 画面構成や配色の工夫を通して、造形的な表現力を身につける。 (創造的な技能)
- 他の生徒の作品を鑑賞し、表現方法の工夫やよさを感じ取りお互いに伝え合うことができる。 (鑑賞)

(3) 題材について

参考作品や先輩の作品をヒントにしながら、漢字の一部を絵にする例題を短時間で練習し、ひらめきを広げ、個性を出すこと、見る人にわかりやすく伝えることが大切であることを意識させる。レタリング辞典からたくさんの漢字を抽出し、より多くのアイディアスケッチを描けるようにする。ウェビングを用いた発想の出し方、広げ方のポイントを指導することにより、自分らしい表現のできる喜びを味わえるようにしたい。着色の段階では、色彩の基礎や絵の具の使い方を学び、より効果的な配色を考えながら制作に取り組み、完成度を高められるようにした。

(4) 指導計画

次	時	主な学習活動	授業におけるねらい	評価計画	評価の方法
1	1	・漢字を選択する。	・文字の特徴をとらえる。	関・発・技・鑑	観察・ワークシート
2	1	・イメージを広げ、アイディアスケッチを行う。	・ワークシートを用いて、イメージを広げることができる。	関・発・技・鑑	観察 ワークシート
3	2	・画面構成を考え、	・自分なりの工夫を	関・発・技・鑑	下絵作品

		下絵を描く。	取り入れ、表現できる。		制作カード
4	3	・着色する。	・デザインを生かした色を丁寧に塗ることができる。	関・発・技・鑑	完成作品 制作カード
5	1	・鑑賞会を行う。	・互いの作品のよさを感じ取ることができる。	関・発・技・鑑	作品 鑑賞カード

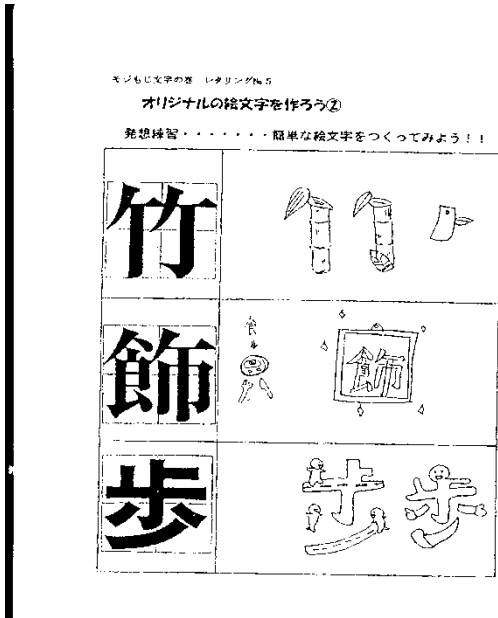
3 本時の学習

- ・目標 漢字から自分なりのイメージを膨らませることができる。
- ・準備・資料 教師／参考作品、レタリング辞典 生徒／鉛筆、定規、スケッチブック
- ・展開

学習の流れと活動	指導と評価の視点 ☆支援・指導の工夫
<p>1 本時の学習内容を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">漢字から発想を広げよう。</div> <p>2 練習プリントで絵文字を作ろう。</p> <p>3 漢字をもとにウェビング・マップを作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漢字そのままの形を変形したり小物をつける。 ・漢字の部首の一部を絵にする。 ・漢字のイメージから得にする。 ・擬人化して表現する。 <p>4 本時の学習を制作カードを用いて振り返る。</p> <p>5 次時の学習内容を確認する。</p>	<p>・本時の学習内容を確認し、進んで活動に取り組めるように参考作品の提示やアイデアの紹介を行い、興味関心を喚起する。</p> <p>・漢字の一部が絵になる例題を短時間で何題が出題し、ひらめきが大切であることを意識させる。</p> <p>・発想の浮かばない生徒には個別に助言し、前向きに取り組めるようにする。</p> <p>・レタリング辞典から抽出した漢字を基に、言葉のイメージを広げ、ウェビングをする。</p> <p>・出てきた言葉を参考にアイデアスケッチをする。</p> <p>・より良い表現を工夫したい生徒には参考資料を提示し、生徒が発想のヒントとして使用できるようにする。</p> <p>・期間指導の際には、工夫の見られる生徒や意欲的に取り組んでいる生徒を賞賛し、前向きに制作に取り組める雰囲気作りをする。</p> <p>・各自が本時の活動を振り返り、反省や努力点をカードに記入するよう呼びかける。</p> <p>㊦ 漢字から自分なりのイメージを膨らませることができたか。(観察・作品・態度)</p> <p>・今後の制作の計画や持ち物の確認を行い、見通しを持って制作することができるように支援していく。</p>

4 研究のまとめ

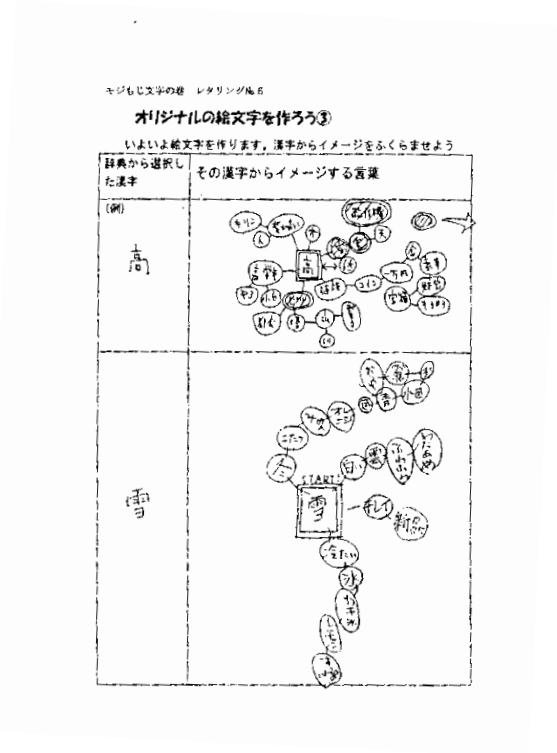
<練習プリント>



<学習の振り返りカード>

美術制作カード		1年 2組 菅氏名	
題材名	レタリング オリジナル絵文字作り		
目標	集中する、個性的な作品にする。		
日付	活動内容	反省	達成度 (A/B/C)
5/1	アイデアスケッチ	集中して取り組めた	A B C
5/19	意味の整理	人の表情を参考にイメージにした。	A A A
5/21	5/21の練習	おもしろいアイデアが思いついた。	A A A
5/26	5/26の練習	自分の思い通りに文字をうまく描けなかった。	B A B
5/27	5/27の練習	ほらいつもの練習の習慣が身についた。	A A B
5/16	5/16の練習	ゴシック体は具体的にイメージして練習の習慣が身についた。	A A A
5/28	5/28の練習	練習の習慣が身についた。	A A B
5/29	5/29の練習		
5/30	5/30の練習		
5/31	5/31の練習		

<ウェビング・マップ>



<自己評価・観賞カード>



導入の段階で短時間の練習プリントを使用したことにより、生徒の興味関心を喚起し、意欲的な活動につなげることができた。漢字をレタリング字典からいくつか選択し、その感じから浮かぶ言葉をウェビングにより書き出し、発想を広げる手立てとした。毎時間制作カードを記入して学習の振り返りを行い、見通しを持って作業に取り組むことができた。作品鑑賞会を行い、互いの良いところを認め合い、あたたかい雰囲気の中で活動することができた。

5 今後の課題

本題材は生徒たちも楽しく、集中して取り組むことができた。本題材の前にレタリングの学習や基礎的な色彩学習を行っていたため、より工夫を凝らしたデザイン性の高い作品を制作することができた。アクリル絵の具の使い方や色彩などデザインについての基礎を多く学べる題材のため、本題材で学んだことをいかし、ポスターの制作などさらに発展させた題材に取り組んでいきたい。

絵の具での着色に苦手意識を持つ生徒が多かったため、着色の段階では、グループの形態で制作する時間を設けた。互いに着色の技術を教えあう姿も見られ、効率よく授業を進めることができた。なかなか発想の出ない生徒への助言や鑑賞活動の際の生徒の相互評価方法、自己評価の方法の工夫が今後の課題である。

<生徒作品>

